

檀原市立図書館だより

平成25年3月10日発行  
第26号

# 檀の樹

檀原市子ども読書活動推  
進計画

—5カ年のまとめ—

(1) 推進会議の構成

P2

(2) 部会ワーキング

取組と課題

(3) 25年度以降の方向性

P3

(4) 5年間の取組と成果

P4~7

(5) 関係者の声

P8~9

(6) 今日までの流れ

P10~11

こんな本読んでんねん

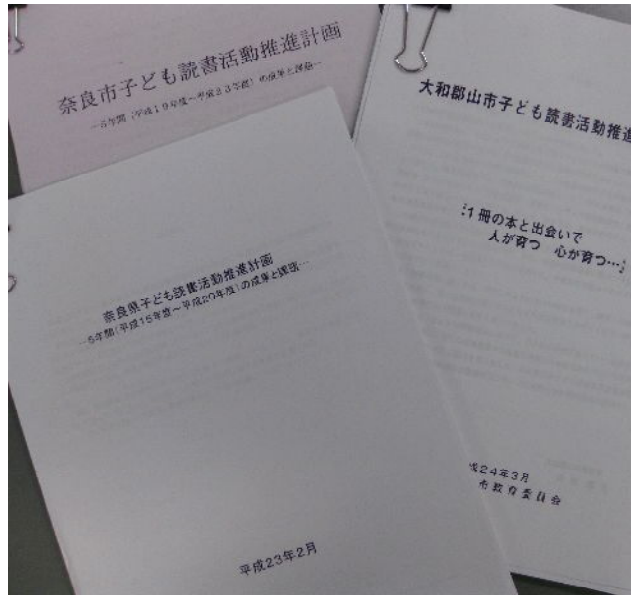
P12



## 橿原市子ども読書活動推進計画

### —5ヶ年のまとめ—

奈良県計画の「成果と課題」作成をはじめ、各市町村でも5か年のまとめ作業がおこなわれています。詳細は各自治体のホームページ等をご参照ください。



本と触れ合うことによって、子どもは言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにします。

ひとりひとりの興味や関心を尊重しながら、押しつけるのではなく、子ども自身が本を選ぶことができるようにすることが大切ではないでしょうか。

子どもと本との出会いを醸成するために、「橿原市子ども読書活動推進計画」の中で、様々な取組が図られています。

#### ◇橿原市子ども読書活動推進計画の策定について

平成13年に「読書活動推進に関する法律」が制定され、平成14年8月に国の基本計画が閣議決定されました。また、平成15年には「奈良県基本計画」が策定されたことを受けて、県内の市町村においても計画策定が進められてきました。当市においても、「橿原市子ども読書活動推進計画策定委員会」を設置し、ワーキング部会での関係者による審議を受けて「橿原市子ども読書活動推進計画」を策定し、20年4月より具体的な取組を始めました。

#### ◇橿原市子ども読書活動推進会議「取組のまとめ(点検と評価)」について

計画期間5ヶ年を通じて、取組の点検と評価をおこなうために、4部会から成る「橿原市子ども読書活動推進計画推進会議」が発足しました。24年度は計画期間として想定した5か年の最終年にあたるため、各部会において取組の確認と問題点の洗い出しを行うため、5か年の「成果」と「課題」についてまとめました。併せて推進会議においては、各部会の「成果」と「課題」を総括するとともに、25年度以降の方向性についても審議をおこないました。

#### (1) 橿原市子ども読書活動推進会議の構成（4部会）

24年度は、22年度におこなった「中間年のまとめ(3か年)」を基礎にして、「5か年のまとめ」をおこないました。議論の継続性を維持するために、基本的には各委員と関係者に継続してご参加いただいています。

「地域部会」 社会教育課 中央公民館 橿原文庫連絡会 橿原おはなしの会 図書館

「家庭部会」 福祉総務課 子育て支援課 健康増進課 橿原文庫連絡会 橿原市図書館ボランティアの会 図書館

「学校部会」 教育総務課 学校教育課 校長会 学校図書館研究会 橿原文庫連絡会 橿原おはなしの会 図書館

「図書館部会」 橿原文庫連絡会 橿原おはなしの会 橿原市図書館ボランティアの会 図書館

## (2) 各部会のワーキングについて(5年間のまとめ)

## ◆ 家庭部会の取組と課題

乳幼児期における家庭での読書活動にとって、ブックスタートの取組が重要です。健康増進課、子育て支援課、関係団体やボランティアなどと図書館が連携を図ることで、「子どもの育ちと本」について、これから子育てが始まる若い家庭を中心に知見の醸成に努めています。

ブックスタートの協力者である関係団体やグループを、図書館ボランティアのブックスタート班として一括し、併せて公募などにより賛同者の拡充に努めます。事業スタートから4年が過ぎ、初期のメンバーにも入れ替えが生じており、知見や情報の共有や研修がこれからの課題です。

## ◆ 地域部会の取組と課題

地域に点在する地区公民館図書室や学童クラブ、地域文庫、児童センターなどを「子どもたちが本とであうための場所」と理解することで、様々な読書活動を実現させることが可能となります。

「場所」としての各拠点と、「担い手」の連携が必要です。ただ、地区や施設により事情や状況が異なるため、画一的な方策によっては達成が難しいことも明らかになってきました。地区の事情や状況に精通した地域内住民が「地の利」を活かし、子どもたちと本をつなぐ協力者としてのメリットを発揮できるよう推進会議の役割が望まれます。

## ◆ 学校部会の取組と課題

読書タイムや読み聞かせの実施、学校図書館の整備・充実、図書委員会の活動などの取組が進展しています。休み時間や放課後に図書館を開館する学校も増えてきています。

学校図書館の開館時間の確保や環境整備、図書リストの作成など、ボランティアや校外関係者との連携を図る取組の大切さも広く認識されてきています。学級文庫の充実や学校図書館資料の運用法も大切な課題であることがわかってきました。図書館システムの更新と学校図書館の環境整備については、今後の対応が望まれます。

## ◆ 図書館部会の取組と課題

国庫補助金の充当により、懸案だった図書資料の充実と更新に重点的に取り組むことができました。蔵書の形成を図りながら、併せてブックリストの作成などの読書活動の啓発や団体貸出、おはなし会やストーリーテラー養成講座などの開催にも継続して取り組みます。檀原文庫連絡会や檀原おはなしの会、檀原市図書館ボランティアの会との連携の中で、図書館担当者の成長が図られることも期待されています。

## (3) 25年度以降の方向性について

「5カ年のまとめ」の中で、課題として残っているものや、継続が欠かせないことなどが明らかになりました。檀原市子ども読書活動推進計画がかかげる理念に今後も取り組んでゆくために、以下の点が確認されました。

## ◇ 檀原市子ども読書活動推進会議とその構成部会である4部会の継続

取組内容の効果測定や検証については、可能な限り貸出冊数、調達冊数、参加人数、活動人数、活動時間などの数値化による把握も取り入れて、関係者・保護者・利用者などに開示します。

また、必要な調整や話し合いを部会の場で重点的に行うことで、取組内容がより現実的で効果的であるよう努めます。

## ◇ 部会に重点を置いた調整と取組の実施

必要に応じて、取組内容別に学校部会、家庭部会、地域部会、図書館部会を開催し、特別な事情や全体的な調整の必要が発生した場合は、複数部会の合同開催や推進会議による審議を行います。

## ◇ 今後の主な取組内容など

「5カ年のまとめ」の中で、解消や改善、または継続が求められている「課題」や、情勢の変化の中で新たに対応が求められることについて、部会や推進会議に諮りながらその都度整理します。

## (4)5年間の具体的な取組と成果

### ◆学校教育・保育活動の中での取組

教科学習や保育活動、学校図書館での指導や活動、図書館や図書を活用した調べ学習などに加えて、校内放送や朝読の時間を活用した啓発・課題図書などの紹介、校長先生や教頭先生などのおススメ図書や図書だよりの発行などの取組がおこなわれています。図書委員、あるいは高学年児童から低学年児童への「おはなし」やシオリのプレゼントなどの取組もおこなわれています。

図書予算の配分を受け、各校の学校図書館の図書資料の充実も図られています。教職員だけでなく、児童・生徒や図書委員、保護者からも購入図書の希望を聞いて幅広い選書に努めている学校もあります。

また、休み時間や放課後に学校図書館を開館し、児童・生徒が利用する機会を増やしている学校も増えています。

各校の方針や状況を十分に理解しながら、校内での取組を側面からお手伝いするために、校外関係者やPTAグループ、おはなしの会などによる図書の修理や読み聞かせ、図書案内などの活動も始まっています。

### ◆学校図書館の取組

子どもたちの身近に優良な図書を数多く配置するために、学校図書館図書標準向上の取組も継続しています。今後は、子どもたちにとって身近な学級文庫の充実についても、方策を図ることが求められます。

#### ※学校図書館図書標準について

市立小学校16校	95.8%(24年8月末)
市立中学校6校	90.7%(24年8月末)

学校により、司書教諭、図書館担当者の置かれている状況は一様ではなく、学校図書館の環境整備に取り組む時間確保は難しい面があります。

そうした状況を踏まえ、ボランティアの協力、あるいは放課後や夏期休業中などによる教職員一斉による取組もおこなわれています。

23年度に試行的に始めた図書館から各小学校への団体貸出図書の輸送について、24年度も引き続いて取り組まれています。

校外関係者の協力や団体貸出事務の一部引き受けによって、司書教諭や図書館担当者の負担軽減を図ることで、子どもたちの読書に関わる取組がより手厚くおこなえるように側面支援の方策を模索しています。



教室運営の中での読書活動



学校図書館での図書委員の活動



出版社(おはなし隊)の市立小学校訪問



市立中学校の職場体験(図書館実習)

#### ◆文庫、おはなしの会など、各団体などの取組や催し

従来からの図書貸出を主とする文庫活動、おはなしの配達に加えて、子どもたちの読書活動推進のための講演会やセミナーなどの催しを通じた啓発なども取り組まれています。

分館を持たない当市では、各地域の読書活動の拠点として地域文庫が役割を果たしてきた一面があります。

併せて、市立幼稚園や市立小学校に「おはなしの配達」を実施しているおはなしの会などの活動も重要です。

図書館ボランティアの会が行っているかしはらナビプラザでの「おはなし会」など、各団体が実施するプログラムが増えています。



図書館ボランティアの会と図書館によるクリスマスおはなし会

毎週土曜日の午後3時より、館内おはなし室で、図書館、榎原おはなしの会、図書館ボランティアの会が絵本の読み聞かせとストーリーテリングをおこなっています。24年度のべ515人(4～12月)、23年度44日のべ617人、22年度、46日のべ619人。

毎月第2水曜日に図書館おはなし室で行っている「赤ちゃんとおはなし会」や、毎月第1、3、4、5水曜日の午前10時よりおこなっている「おはなしの時間」では、対面朗読や手遊びなども取り入れて、子育ての初期段階を迎えている皆さんへの啓発に努めています。「赤ちゃんとおはなし会」283人(4～12月) 「おはなしの時間」290組(4～12月)

##### ○榎原文庫連絡会の取組

子どもの読書関連の公開セミナーを開いたり、各地域文庫の開催時間内で、おはなし会、読み聞かせ、などが適宜おこなわれています。「文庫ニュース」「榎の樹第24号」などを参照

##### ○榎原おはなしの会の取組

「おはなしの配達」23年度  
市立幼稚園11園 のべ 44回 / 2627人  
市立小学校10校 のべ 20回 / 3931人

「緑のたね NO. 26」「榎の樹第21号」参照

##### ○榎原市図書館ボランティアの会の取組

図書館おはなし室の他、かしはらナビプラザでも活動しています。「榎の樹第19号」参照

##### ○新規団体の取組

榎原市図書ボランティア連絡会やブックトークの会などの市民協働助成団体が、読み聞かせや講習会の活動に取り組んでいます。

#### ◆ブックスタート

平成20年4月より、健康増進課が毎月2日を充てて実施している1歳6か月健診と連動する形で、ブックスタート事業を実施しています。

子育て支援課、図書館ボランティアブックスタート班、図書館の連携により、24年度18日802組(暫定)、23年度24日1012組、22年度24日1,040組、21年度24日1,067組。20年度、24日1,011組の親子連れに絵本を用いた読み聞かせを行うことと併せて、絵本の紹介や子どもの育ちと本の啓発、「おつきさまこんばんは」「がたんごとんがたんごとん」「ここよここよ」などの絵本をプレゼントしました。



各団体の協力で実現した図書館フェスティバル



ブックスタートでの様子

## ◆団体貸出

市立小学校や文庫連絡会などと図書館が連携して、24年度16,659冊(4～12月)、23年度18,957冊(小学校10621冊)、22年度19,762冊(小学校10376冊)21年度、20,381冊(うち小学校11760冊)、20年度20,654冊(うち小学校10,635冊)を貸出しました。

上記総数には、県立医科大学院内学級や学童クラブ、地区公民館やPTAグループへの貸出も含まれています。23年度には「住民生活に光を注ぐ交付金」の充当を受けて団体貸出用図書の新規調達と老朽・汚破損図書の更新がおこなわれた。

23年度からは学校の先生の負担軽減を目的として、貸出図書の配送を試行しています。

また、地域における子どもたちの読書活動の推進するための新たな拠点として、学童クラブの役割に期待し、団体貸出図書の輸送を24年度から試行実施しています。

## ◆職場体験・社会見学など

社会科見学の一環として市内の小学3年生を受け入れ、図書館の利用案内や貸出カードの作成などを行っています。

図書館見学	24年度 市立小学校10校676人
	23年度 市立小学校11校801人
	22年度 市立小学校11校903人
	21年度 市立小学校11校901人
	20年度 市立小学校 8校744人

市内の中学生を受け入れ、カウンター業務や資料管理業務について実習を行っています。

図書館での職場体験	24年度 市立中学校6校24人
	23年度 市立中学校4校14人
	22年度 市立中学校6校22人
	21年度 市立中学校6校24人
	20年度 市立中学校6校24人



市立校への団体貸出図書の輸送



市内小学生の図書館見学

## ◆様々なボランティア活動

学校支援ボランティアや図書ボランティアなどによる活動が定着してきています。図書の修理や図書室の環境整備、図書の紹介や読み聞かせ、おはなし会といった活動が、学校図書館や市立図書館、地域の施設などで行われています。

そうした各活動は、地域や施設、担い手の所属などによって様々な形態や状況があります。各校でそれぞれに行われていた学校支援の担い手の皆さんが、情報の共有や技量の向上を目的に、連絡会の結成に自主的に取り組むなどの新しい動きも始まっています。



市立校での学校支援ボランティアの活動

#### ◆地区公民館や学童クラブなど地域での活動

地区公民館図書室や地域子ども教室などがおこなう催しと図書館が連携して、子どもたちの読書活動の拡充に取り組んでいます。学童クラブやPTAグループへの団体貸出にも努めています。

地域や施設により環境や条件が大きく異なるため、画一的な方策によって一元的に取り組むことが難しいこともわかっています。

地区公民館での活動、学童クラブ、地域文庫など、地域や施設の実情に合わせた取り組み方法を選択することも必要ではないでしょうか。

地域での取組の補強策のひとつとして、団体貸出を希望する学童クラブへの配本も試行しています。

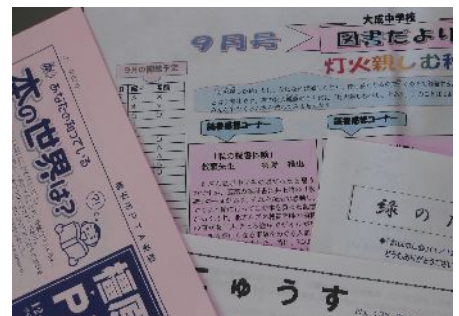


地区公民館での読書啓発活動

#### ◆情報の共有と伝達の促進 読書活動を育む啓発など

奈良県立図書情報館、奈良県立教育研究所、読書関連団体、他自治体立の図書館が開催する講演会、セミナー、研修などの情報の収集と共有、それらの伝達に努めています。

広報かしはら特集記事、学校新聞、読書だより、学年だより、PTA広報紙、各種団体などが発行する会報などの紙面を通じて、子どもたちの読書活動を育む啓発等が取り組まれています。



読書啓発のための様々な紙面

#### ◆図書館資料の充実 資料展示の取組

国庫補助金「住民生活に光を注ぐ交付金」による1500万円の充当を受け、児童サービス用図書を中心に新規調達と老朽図書や汚破損図書の更新を行いました。

併せて、重複図書として所蔵していた優良な児童・青少年向け図書を市立幼・小学校へ譲渡しました。

子どもたちに比較的時間の余裕がある夏休みや冬休みに、図書と親しむ機会を持ってもらうことを目的に、「夏休みに読んでほしい本」「課題図書」「季節の絵本」「クリスマス絵本」「ミニ展示」などの展示を企画して貸出を促進しています。また、それらの期間と特別貸出の実施によって、読書活動の推進が相乗的に効果を上げることにも取り組んでいます。

おとなが一方向的に子どもたちに読書の機会を提供するだけでなく、子どもたち自身にも読書の楽しさや素晴らしさを伝える役割を担ってほしいという願いから、おすすめ図書の書評を募集する「こんな本読んでんねん」などの新しい取組も試行しています。

各校の協力もあり、初回の24年度分には328通の応募がありました。その一部は、図書館フェスティバル会場に掲示し、併せて広報「かしはら」の図書館担当ページにも転載しました。



小学生による150字おすすめ書評「こんな本よんでんねん」



きせつ絵本「冬」、「クリスマスのほん」

## (5)関係者の声

### ①奈良県立医科大学付属 病院院内学級文庫



福田 示知恵さん(ふくだ みちえ)

橿原市立中学校などで教職勤務の後、奈良県立医科大学付属病院ボランティアに参加。

退職後、10年以上にわたって病院ボランティアとして院内学級文庫の団体貸出などにご尽力いただいている福田さんにお話をうかがいました。

- ―― 院内学級文庫に携わられるようになった経緯をお聞かせください。
- ―― 入院などにより通学が困難な児童、生徒を対象にした院内学級の活動が先行してありました。市立の担当校から病院に教諭を派遣して、授業などを行うのが院内学級です。昭和57年に小学校院内学級、平成7年に中学校院内学級が奈良県立医科大学付属病院で始まりました。そうした院内学級の取組のひとつとして、院内学級文庫が平成16年春からスタートしたのです。  
私は、院内学級の初期メンバーのおひとりだった阪中教諭と大成中学校で同僚でした。平成12年に退職した時、そのよしみでボランティアに参加しました。当時小児科部長だった吉岡医師とお話していく中で、本が好きだったもので、お断りできなくなってしまって……(笑)。
- ―― 院内学級という環境は、学校図書館や教室にはない難しさがあるのではと推察します。
- ―― 小児科部長、看護師長、小学校の担当教諭、中学校の担当教諭、それと私のような病院ボランティアという陣容で、市立図書館から団体貸出を受けた図書を基礎に、院内学級文庫の活動を行っています。院内学級に在籍する子どもたちは、治療や療養のため制限の多い生活の中で学習していますが、可能な限り日常生活を取り込むことを目標にしています。院内学級の時間には、可能なら部屋着のパジャマから着替えますし、朝会えば「おはよう」と挨拶します。読書も、そうしたごく当たり前の日常のひとつとして、子どもたちの身近にあってほしいという願いから活動を始めました。現在では、赤ちゃん～保護者向けの図書をブックトラックに並べ、プレイルームに置いています。週1回病棟を巡回し、2ヶ月に1度、図書を入れ替えます。感染症やプライバシーの保護など、注意が必要なことに留意しながら、子どもたちに有意義な学級生活を送ってもらえるように努めています。もちろん、病院スタッフの助言と協力は欠かせません。
- ―― 図書の輸送や選書など、様々な局面でご尽力いただいています。
- ―― 院内学級文庫は、現在数名のボランティアが2班体制で関わっていますが、私のように退職後すでに10年以上が経過していて、これからも今までと同じように……、ということが難しくなりつつある者もいます。活動の引継ぎ、新しいメンバーの加入など、仲間で話し合わなければならない時期に差しかかっているのではと感じています。しかし一方では、週1回の「読み聞かせ」(おはなしおばさん)の活動も加わり、子どもたちを本へといざなう活動も広がっています。
- ―― 貴重なお話、ありがとうございました。



## ②学校図書館ボランティア



森 小夜子さん(もり さよこ)

檀原市立小学校などで教職勤務の後、市内の学校図書館内でボランティアに参加

小学校で司書教諭、担任教諭として奉職の後、ボランティアとしてご尽力いただいている森さんにお話をうかがいました。

- ―― ボランティアに関わる方々が増えていますが、かつては学校関係者であり、また現在はボランティア当事者でもあるお立場から、アドバイスのようなものがあればお願いします。
- ―― 退職前の8年間、学校図書館でボランティアの方に来ていただいた経験があります。放課後の図書整備と環境づくり中心でしたが、こちらの要望を理解して毎週作業してくださるのが本当にありがたかったです。  
現在は自身もボランティアとして活動していますが、心がけているのは、学校(学級)運営に口出ししないことや、子どもたちの様子を他で話さないことです。特に一日の学校生活の始まりでもある朝の読書タイムでは、子どもたちはさまざまな様子を見せてくれますが、あくまでもお話配達に徹することを大切にしています。きらきら輝き目に出会ったり、感動を共感できたりする喜びは大きいのです。本の内容などについて事前に打ち合わせができれば一番いいのですが、時間的に難しい面があるので、朝読の後、可能なときは先生方に簡単に内容を伝えています。昼休みや放課後の活動なども含め、ボランティア活動は、あくまでも学校教育を支える補助的なものと考えています。
- ―― ある保護者が来館された折に、話題がボランティア活動になって、「学校図書館で、掃除でもさせてもらえれば」とおっしゃって、感銘を受けたことがありました。図書館から間接的に拝見していても、その方に対する学校関係者の信頼の様子が見てとれました。
- ―― 先ず、信頼関係を築くことが大切ですね。「学校側のニーズを把握してほしい」といった思いを、先生方はお持ちではないでしょうか。学校教育について理解し、求められることを引き受けたり、相手の立場を思いやったりする気持ちが信頼関係につながるのでしょうか。様々なボランティア活動がありますが、私の関わる図書ボランティアから考えますと、図書環境を整える手伝いをしたり、本の整備などの作業や、絵本や物語などのお話をしたりする活動で先生方とお互いの考えを共有することができれば、さらに無理なく長く続けられるのではないかと考えています。
- ―― 部活動の生徒と顧問の関係で、痛ましい事例もありました。そうした関係への警鐘として、「他者の人生を使って自分の夢を追っている」といった指摘もありました。図書館としても、「本の夢」を押しつけることのないように、子どもたちと慎重に接してゆきたいと思います。本日はありがとうございました。

## (6) 計画策定時からこれまでの経緯について

檜原市立図書館だより「檜の樹」バックナンバー第11号(策定時発行)、第15号(1年次発行)、第22号(中間年発行)、第25号(4年次発行)に概要を掲載しています。図書館ホームページ → 図書館報「檜の樹」の順でアクセス願います。また、その他の号でも随時関連内容を掲載しています。

平成18年 12月20日	第1回檜原市子ども読書活動推進計画 策定検討委員会	計画策定のための準備会。基本事項や方向性について協議
平成19年 3月 2日	奈良県子ども読書活動推進計画担当者 会議	奈良県担当者より各市町村担当者への説明会
4月12日	第2回檜原市子ども読書活動推進計画 策定検討委員会	計画策定を具体化させるための2回目の準備会
6月27日	第1回檜原市子ども読書活動推進計画 策定委員会(教育長訓令甲第6号)	策定委員会の設置。策定作業に本格的に着手
10月26日	第2回檜原市子ども読書活動推進計画 策定委員会	計画素案の作成と検証
11月27日	計画案へのパブリックコメントの募集	
平成20年 2月14日	第3回檜原市子ども読書活動推進計画 策定委員会	パブリックコメントを反映させ、策定作業を終了
2月29日	檜原市定例教育委員会会議	策定内容を答申。審議を経て了承。 ★ 参照資料 檜原市立図書館だより「檜の樹」第11号
7月29日	檜原市子ども読書活動推進計画 第1 回推進会議	推進計画策定を踏まえて、今後の具体的取組についての 推進体制の確認。 福祉総務課、子育て支援室、健康増進課、教育総務課、 学校教育課、社会教育課、図書館、檜原文庫連絡会、檜 原おはなしの会
平成21年 3月17日	檜原市子ども読書活動推進会議(通算 2回目)	具体的取組についての連携体制の確認
4月23日	子どもの読書活動の実践により、文部 科学大臣表彰	ブックスタート事業、図書館ボランティア、学校教育や地域 活動において、諸団体の連携に対する評価
8月21日	檜原市子ども読書活動推進会議打ち合 わせ会	檜原文庫連絡会 檜原おはなしの会 社会教育課 学校 教育課 図書館 による実務担当者部会の設置を協議
8月24日	学校図書館システム研修会	檜原市学校図書館研究会
8月28日	檜原市子ども読書活動推進会議の部会 の設置	檜原市子ども読書活動推進会議設置規定に基づき、「地 域部会」「家庭部会」「学校部会」「図書館部会」の4部会の 設置

平成22年 2月9日	榿原市子ども読書活動推進会議「家庭部会」	子育て支援室、健康増進課、榿原文庫連絡会、図書館
4月24日	子ども読書の日「親子で楽しむおはなし会」	榿原文庫連絡会、榿原おはなしの会、図書館
7月21日	22年度第1回榿原市子ども読書活動推進会議(通算3回目)	福祉総務課、子育て支援室、健康増進課、教育総務課、学校教育課、社会教育課、図書館、榿原文庫連絡会、榿原おはなしの会
8月25日	子ども読書活動推進会議「家庭部会」 「図書館部会」	福祉総務課、子育て支援室、健康増進課、教育総務課、学校教育課、社会教育課、図書館、榿原文庫連絡会、榿原おはなしの会
9月17日	全国図書館大会奈良大会 第4分科会 「児童・青少年サービス」	県立図書情報館、香芝市、生駒市、天理市、斑鳩町の各公立図書館とともに委員派遣
11月17日	子ども読書活動推進会議「地域部会」	中央公民館、社会教育課、榿原文庫連絡会、榿原おはなしの会、図書館
12月16日	子ども読書活動推進会議「家庭部会」 「図書館部会」	福祉総務課、子育て支援室、健康増進課、図書館、榿原文庫連絡会、榿原おはなしの会
平成23年 1月24日	子ども読書活動推進会議「学校部会」	教育総務課、学校教育課、榿原市学校図書館研究会、榿原文庫連絡会、榿原おはなしの会
3月 3日	22年度第2回榿原市子ども読書活動推進会議(通算4回目)	策定3年目を迎え、中間年としての点検とまとめ ★ 参照資料 榿原市立図書館だより「榿の樹」第22号
9月14日	榿原市図書館ボランティアの会講習会	講師 川西町立図書館元館長 益田忠夫氏
平成24年 1月20日	子ども読書活動推進会議「家庭部会」 「図書館部会」	福祉総務課 子育て支援課 健康増進課 図書館 榿原文庫連絡会 榿原おはなしの会
1月24日	榿原市図書館ボランティアの会総会	ブックスタートボランティアと同会が合流。榿原市図書館ボランティアの会ブックスタート班が発足。併せて榿原市子ども読書活動推進会議ワーキング部会にも参加。
2月17日	子ども読書活動推進会議「地域部会」 「学校部会」	既存部署＋既存団体＋図書館ボランティアの会
6月6日	子ども読書活動推進会議「地域部会」 「図書館部会」	各部会において、これまでの「成果」と「課題」について整理
6月13日 6月22日	子ども読書活動推進会議「家庭部会」 子ども読書活動推進会議「学校部会」	
平成25年 1月17日	24年度榿原市子ども読書活動推進会議(通算5回目)	計画の当初想定期間5か年のまとめ(点検と評価)
2月27日	榿原市図書館協議会へ子ども読書活動推進会議の議事内容を報告。	



## 檀原市立図書館

〒634-0075  
檀原市小房町11-5

TEL:  
0744-29-2121

FAX:  
0744-21-1011

### 編集雑記

#### にじみ出る言葉

職場柄、本と関わって生きた人々のことが気にかかる。本を産み出した著者以外にも、一冊が読者のもとに届くためには、様々な人々が介在する。編集者、出版者、校正者や製本者、それらの物流を担うことを職務とする人々……。小売業としての書店の皆さんもそうした方たちといえるだろう。

大正～昭和期に、高橋元吉というひとりの書店人がいた。大岡信さんの名著「折々のうた」でも紹介されたことから、記憶されている方もおられるだろう。進学を望んだが、父の意に従って断念して以後、家業の書店経営に生涯をすごした。

後年、倉田百三、武者小路実篤、柳宗悦らと交流し、詩集「耶律」などを自費で小部数出版した。「新 折々のうた 5」には、詩作の冒頭と末尾が引用されている。

黙々として働き  
黙々として生きる人の前でけて饒舌であるな

—中略—

詩よ  
なむちの滲み出てくるところは深い  
深い沈黙の底だけだ

「詩」

最も豊饒で最も深い言葉は、「沈黙」なのかもしれない……。様々な言説が時に過剰ささえ帯びる現代で、吟味した言葉でつづられた元吉の詠嘆には、読む者の胸を打つ清潔さがある。軽薄に上滑りがちな自らの饒舌を戒めて、本と関わられたことのさいわいに感謝したい。

## こんな本読んでんねん

お気に入りの図書を市内小学校の皆さんにご紹介いただく150字書評「こんな本読んでんねん」、おかげ様で328の応募を頂きました。執筆を引き受けてくれた皆さんと関係者に改めてお礼を申し上げます。

寄せられた内容は、今後の図書館での選書や配架の参考にさせていただきます。一部は、図書館フェスティバル会場や広報かしはら12～3月号に掲載しましたが、このページでも紹介します。

「空想科学読本シリーズ」メディアファクトリーなど 晩成小5年 松嶋 祐樹 君  
「この本は、設定からしてとんでもないことが書いてあります。例えば、ドラえもののタケコプターは死を招くや、ウルトラマンセブンがマッハ7で飛ぶとたちまち体が裂けるなどです。知らなかったことがよくわかります」

なるほど！ フィクションに科学を当てはめると、現実にはどうなるかという本なのですね。こんな本なら、大人も読んでみたくになります。

「ズッコケシリーズ」ポプラ社 今井小5年 的場 稀有 さん  
「今まで読んだ本の中で、一番笑ってしまっても良かったです。主人公3人は、みんな性格がいいと思います。ひとりひとりがちがった性格で、そういったところがおもしろかったです」

なるほど！ 何が起こるかと同じぐらいに、どんな登場人物なのかということも、すごく気になりますよね。そこが本のおもしろいところかも……。

「ザ・ビートルズ」講談社 耳成南小4年 平田 花梨 さん  
「夏休み用の本なのに、帰ってすぐに読み始めてしまいました。ビートルズの歌を聴いたことがあったので借りました。本には日本に来たときの写真もありました。ビートルズの歌をもっと聴きたいと思うようになりました」

なるほど！ 興味のあることや未知のことが「わかる」のも、本の良さでしょうね。本があれば、おとなや友達にたずねなくても、自分で調べられる？

「消防署」リブリオ出版 白北小4年 きい あつし 君  
「1000度以上の火を消したり、油圧カッターの力など、すごい。24時間ずっと交代でたいへんだなと思いました。消防署の仕事は、火を消すだけではないこと、訓練もすごく大切なことなどがわかりました」

なるほど！ 特別な場所や仕事のことも、本を通じて詳しく知ることができるのでは。ふだんは見られない写真やイラスト、図表の載った本もあります。

「まんがで学習 ゆかいな川柳 五七五」あかね書房 今井小4年 岡本 拓也 君  
「こんな川柳もあります。どう見ても ぼくのケーキは 小さいぞ 『勉強は？』 いつもうるさい 母の声 先生は 体育つぶして 国語やる ……」

なるほど！ 収録作品を抜粋することで書評にしているとは、ユニーク。たくさんの収録作品の中からこれらを選んだユーモアとセンス、抜群！

◆◇◆その他、多数から支持された人気図書(一部抜粋 含シリーズ)  
「かいけつゾロリ」「若おかみは小学生」「あらしのよるに」「ヤング・インディ・ジョーンズ」「マジック・ツリーハウス」「デルトラクエスト」「黒魔女さんが通る」「はだしのゲン」「講談社青い鳥文庫シリーズ」「借りぐらしのアリエッティ」「不思議の国のアリス」「宮沢賢治関連」「金子みすゞ関連」「モーツァルト」「シートン動物記」など

#### 表紙の写真

市立小学校での「朝読」の一例。1日が始まるすがすがしさの中で、集中して読書に親しむ取組がおこなわれています。